

第1章 青春の海

～ 第24回海外研修航海～

この旅行の後、私は水平線の記憶とともに充実した学生生活を送る。

1.1 陸のない海の景色

1.1.1 望星丸二世 1992年2月15日(土)

今日は朝からあわただしかった。14時30分に三保(静岡県)の研修館に集合だった。アパートを出たのは11時半ごろ。その前に忠実屋へ行ってクリーニングに出してあったスーツを受け取り、こまごまとしたものと一緒にこのノートを買ってきた。そして大学の図書館(中央図書館と11号館と13号館)をかけ巡って、ラバウル関係の資料を探した。しかし見つからなかったので紀伊国屋ブックセンターで旅行ガイドを一冊買い、急いで帰って11時半ごろようやく三保へ向かって出発となった訳である。

余裕があると思っていたが、3分ほど遅刻してしまった。研修館に着くと東海トラベルビューローの説明が始まっていた。よくわからなかった。まあ時間はあるから、おいおい聞くことにしよう。そして落ち着く間もなくみんな急いでバスに乗り、清水港の望星丸二世へと向かった。予備研修の時にも感じたが、荷物を持って入ると船は更に狭く感じる。この狭さで48日間過ごすのだ。頻繁に甲板に出ないと気が変になりそうである。

今日の夕食は多めで、ちょっと苦しかったが全部食べた。ビールも飲んだ。残している人が多かったが、こんな贅沢は今日だけであろう。夕食後はカラオケがセットされたり、ビデオを鑑賞したり、ギターを弾いたり、UNOをやったりしてみんな過ごしていた。明日は6時起床だが、現在23時33分。起きられるだろうか。

明日はいよいよ出港である。これから船酔いが始まる。この狭さにも早く慣れねば。初めて日本を出る日がとうとうやって来る！

1.1.2 出港 1992年2月16日(日)

出港式があり、航海が始まった。船の揺れは凄まじい。酔い止め薬が効いたのか、自分は船酔いしてないし、飯も全部食べている。酔っている人たちは苦しそうである。虚ろな目をして、そこかしこでビニール袋を握りしめて座り込んでいる。驚いたのは、女の人たちがほとんど平気そうだということだ。女性は強くできているらしい。

出港式はビルの中にある多目的ホールで行われたが、外でやった方が良かったと思った。港には両親が見送りに来てくれたが、出港時に知った顔がいるというのはいいものである。天気は快晴で富士山が良く見えた。非常に気分のいい船出であった。紙テープを渡して手に握ったりするのは初めてやったが、なかなか感動的である。それが終わった後にみんなで紙テープをそそくさと片付ける姿は、なんとも急に現実が戻ったようで面白かった。

波のうねりが高く、洗面所の窓から見ていると、波の表情には全く飽きさせない魅力がある。大きく盛り上がったかと思うと、穴が開いたように沈み込んだりする。16時ごろ、まだ陸地は見える。

夕食の後はよく寝て、今22時33分。さすがに字を書いていると少し気持ちが悪くなってきた。この辺でやめておこう。船の揺れは激しい。

1.1.3 後部デッキでのんびり 1992年2月17日(月)

飯がまずい。栄養もかたよっている気がする。これで大丈夫だろうか。船は今日の早朝、八丈島を越えたそうだ。

今日は後部デッキで、航海工学科の練習生の人たちと話をした。むこうは忙しそうで、私たち研修学生の自由時間の多さをとても羨ましがっていた。先に釣り針を付けたロープを船の後ろに結んで魚釣りをしていたが、全然かからなかった。また明日見に行こうと思う。

朝食前にトイレの掃除をしたのだが、誰かの吐いたものが袋に入れていくつも置いてあるのを見た。気持ち悪かった。午後に避難訓練を行い、ライフジャケットの着用法などを教わった。ライフジャケットはポンペイで使うそうだ。また、ポンペイでの水の補給ができなくなったので、節水に協力しようということだ。夕食では食事当番だったが、食器洗いが結構面倒だった。とにかく急いでやったので、あまりきれいに洗えていないと思う。

波は昨日ほど高くはないが、船はよく揺れている。しかし大分みんな慣れてきたようで、食事に出てくる人数も多くなってきた。昼間は太陽が出て、甲板にいるととても気持ちがよかった。鯨を一匹と、大きな貨物船を一隻見た。

やはり下を向いて字を書いていると気分が悪くなってくる。もう寝ることにしよう。現在22時51分。

1.1.4 加山雄三のように 1992年2月18日(火)

暑い。気候が暑いからではなく、夕方6時ごろから9時ごろまでギターで歌い続けたからだ。部屋が狭い上に、男が集まって熱唱すればそりゃあ暑くなるだろう。しかしとても楽しかった。

午前中はほとんど何もなかった。後部デッキへ行っても魚はかかっていなかったし、高瀬さんや竹倉さんと一緒に甲板で縄跳びをやれば縄は切れるし…。15時から全員で山水譜(何やら難しい歌詞の唄にのせて行う海洋学部オリジナルの体操)をやった。これから毎朝やるそうだ。

朝と夜、うちの班は食事当番だった。昨日やってもう慣れたが、やはり正直に言うと面倒くさい！だが、今日の夕食は今までで一番良かった。メニューは、ご飯、みそ汁、コロッケ、野沢菜、いわしとタコとキュウリの酢の物であった。ごく普通のメニューに思えるが、今までがひど過ぎたのか、初めて食欲をそそられるメニューだった。また、昼はカレーだったが、あまりうまいとは思わなかった。

天気は曇りで、まだ暑いとは言えない気候である。もうすぐ半袖、短パンで過ごせるようになるだろう。今日は朝から酔い止め薬を飲まなかったが、何とか体調も崩さず過ごすことができた。酔い止め薬はあと4カプセル残っている。しばらくいらないと思う。

自由研修の期間(船に慣れるための期間)が終わり、明日からはいろいろな予定が詰まっている。まず私たち2班は赤道祭についてのことから始める。今日も少しだけ話し合いをした。まだまだ先は長い。

1.1.5 負けるな 1992年2月19日(水)

気持ち悪い。天気は良くないし、風が強くて船が激しく揺れている。今までで一番気持ち悪い。薬は飲んでいない。なるべく後のために取っておきたいので我慢するつもりだ。波の音がすごい。部屋がきしんでいる。これを書くのがつらい。気持ち悪いからもう終わり。

北回帰線を通過したようだ。

1.1.6 水平線と天球儀 1992年2月20日(木)

星がきれいだった。今日の昼間は天気が非常に良く、甲板で体を焼いている人が多かった。夜は星がとてもよく見え、月の出も見た。東の水平線から月が出てくる瞬間はなかなか感動的であった。周りは360°海なので、水平線のところまで星が見える。きれいに水平線で星が切れているのだ。完全な天球である。今まで自分が見た中で、一番鮮やかで美しい星空だ。みんなで甲板に寝転がって空を眺めた。

そして今日から洋上講座と英会話講座が始まった。洋上講座第一回目は荒木船長による大黒屋光太夫の話である。なかなか興味深く、井上靖の本『おろしや国 酔夢譚』を一度読んでみたいと思った。映画化もされているので是非見たい。今後の洋上講座では、船と一緒に乗っている教授陣がいろいろな話をしてくれる予定であり、とても楽しみである。

英会話講座の方は大学のLL英語か、もしくは外国人講師の英会話の授業のようなものである。英会話については、やはり明日から始まる洋上クラブに期待する。しかし自分は、英語をまだほとんど話せない。ESS¹のメンバーだと人に言うのも恥ずかしい。自分を鍛えるつもりで洋上英会話クラブを希望したが、この劣等感はいつ消えるのだろうか。

夜は星を見た後、ビデオで『インディ・ジョーンズ 最後の聖戦』を見た。21時に時計

¹大学の英会話サークルである English Speaking Society (英語会話研究会)。メンバーが100人近くいる大所帯のサークルであり、私は学生時代の最初の2年間だけ所属していた。退会後もこのサークルの友人たちとの付き合いは長い。

を30分進めた。これから少しずつ日本との時差が出てくる。その他に今日やったことは、赤道祭の話し合いと、スポーツ大会のグループ分けをして出場種目を決めること。スポーツ大会では、自分は綱引きと縄跳びに出ることになった。

洗濯物がたまってきた。あまり長く置いておくとカビが生えてこないか心配である。いつになったら洗濯できるのだろう。

1.1.7 船の平日 1992年2月21日(金)

夕飯がうまかった。魚と何かの肉のフライとキャベツの千切りとトマトとたくあんのご飯、そしてお茶であった。今日の洋上講座は「船乗りのかたふり」という題目で、ちょっとした航海や船の知識を得ることができた。そして、午後からは洋上クラブが始まった。自分は英会話クラブで、今日はピエール(先生)の他に自分を入れて5人であった。14時から16時までだったが時間が短く感じられた。なかなか楽しく、次回も楽しみだ。それから、ポンペイへの到着が1日早くなって、24日になるそうだ。まあ、1日ぐらい早く着いても大して変わりはないと思うが。

明日はスポーツ大会だ。我が赤組では応援にも力を入れ、非常に盛り上がっている。とても楽しみだ。やはりこういう行事があると、活気づいていい。夜は赤道祭の話し合いをした。タイム・テーブルや脚本も完成し、こちらの方も熱が入ってきた。成功する様に班員一同、頑張ろう！

今日もまた時計を30分進め、日本との時差は1時間となった。船は南東へ、ポンペイを目指して今日も行く。

1.1.8 スポーツ大会 1992年2月22日(土)

皮膚がヒリヒリする。午前中、1時間半ほど甲板で仰向けに寝転がっていたのだが、スポーツ大会が始まってちょっとすると、太ももからヒリヒリしだした。腕も顔も真っ赤である。午前中は部屋に引っ込んでおけばよかったな。

スポーツ大会はなかなか面白かった。非常に盛り上がって大成功であったと言える。何回も海水を浴びたので、体に塩がいっぱい付いてざらざらしていた。綱引きに出られなかったのが残念だが、まあいいだろう。

夜は遅くまで赤道祭の話し合いで大変である。なんだか自分はあまり参加していないようで、少し申し訳ない。今は0時18分。もちろん30分進めた時刻だ。明日も早いから今日はもう寝よう。赤道祭、頑張ろうぜ！

1.1.9 もうすぐポンペイ 1992年2月23日(日)

まだ皮膚が痛い。今日はほとんど船内にいたのだが、顔と腕と足は真っ赤である。一日中揺れがひどく、ずっと気持ち悪さが付きまとった。

午前中の洋上講座は機関長の話だった。船の仕組みや装置、歴史などの話だったが、「時間がない。」

を連発していて、話したいことを相当省略したらしい。もう少し聞きたかった。その後の英会話はちょっとつらかった。昼は食当で、午後はすぐにポンペイの予備調査の発表があった。担当班の作成した小冊子はとても良いと思った。その後、また赤道祭のことがあったが、途中暇になり、英会話クラブの活動があった。この英会話クラブはとても楽しい。大学での M 先生や LL 英語の授業よりいい。

今日の飯はあまり覚えていないが、昼に出たリンゴはうまかった！また食いたい。夕食の前に副団長の話があった。まあ簡単に言えば大学生としての自覚を持つてという様なことだった。こんなところで若い命を落とすのはバカバカしい。気を引き締めて上陸しなければならない。

明日は久しぶりに陸地が見られる。日本との時差は今日進めた分を入れて2時間となった。

1.2 初めての外国 { Pohnpei (Ponape) }

1.2.1 上陸 1992年2月24日(月)

島に上陸した。13時ごろである。これで私も外国人(?)だ。ここミクロネシアのポンペイの港に船が着いたのは9時か10時ごろだったと思う。揺れが止まるまで気分が悪かったのだが、揺れが止まってからさらに気分が悪くなり、頭が痛くなった。しかしそれもすぐ治り、上陸の時は何ともなかった。陸では

「地面が揺れてる。」

と言う人が結構いたが、自分には感じられなかった。頭も非常にクリアである。中には、

「揺れてねーよ。」

と言いながら無意識に体が揺れている人もいて、おかしかった。

上陸してから、ぎゅうぎゅう詰めでも暑い車に乗って20~30分走り、ネット村文化センターと言うところへ行った。花の頭飾りでお出迎え。ちょっとうれしい。そこで島の人たちのダンスを見せてもらったり、何とも奇妙な飲み物(シャカオ)と食べ物をもらったりした。この飲み物、何かの木の皮と実と根っこあたりを石でたたいて絞った、粘りのある飲みものなのだが、一言で表現すると

「木の皮風味の山いも、しびれ付」

といった味なのだ。つまり非常にまずい。

この人を見ていて思ったのだが、彼らは普段はシャツやジーパンを着ていて、あの衣装は特別な時のものらしい。それに、お金を払ってくれるからやる行事で、それ自体はもう過去のものとなっているのではないだろうか。つまり彼らは本当の暮らしを我々に見せたのではない、という気がする。あの木の皮味の飲み物も彼らは好んで飲んでいるのだろうか。疑わしい。非常にひねくれた考えかもしれないが、これが今日、初めての外国で自分が感じた正直な気持ちである。

その村の後、ある店の前まで車に乗り、自由行動となった。服などをいろいろ見てまわっ

たが、あまりポンペイオリジナルのものを見かけなかった。ドーナツがどこでも売っていたので、見かけたものの中でここで作っているのは唯一それだけかもしれない。

自分はお金を日本円しか持ってきていない。今日は銀行へ行けなかったので、Tシャツ1枚と夕食代を^{たいてい}2に立て替えてもらった。申し訳なくて自由に買い物ができない。今日の夕食は港近くのホテルのレストランで、チキンカットレットを食べた。US\$6.50。ファンタオレンジがUS\$1.00だった。久しぶりにうまい！と思ったが、量が多かった。

上陸前にいろいろ注意を聞かされて、とても危険なところだというイメージが頭の中にあったのだが、全然そんなことはなかった。副団長、脅しすぎ。しかし明日からも慎重に行動しようと思う。

1.2.2 珊瑚の海とナンマドール 1992年2月25日(火)

珊瑚^{サンゴ}と魚たちはとてもいい。今日はボートでナンマドール遺跡へ行き、その帰りに小島に寄って休憩をした。そこでゴーグルを借りて覗いた海の中は、言葉に表せないほど美しかった。

ナンマドール遺跡というのは何だかよくわからない。石を積み重ねた城のようなものが造られていて、その一部が残っている。どうしてこのような巨大な遺跡がここにあるのか、ミクロネシア最大の謎だそう。どうやって造ったのかも解明されていないらしい。でも正直に言うと、見てもあまり感動は無かった。

行き来に乗ったモーターボートはとても速く、気持ち良かった。小島では足の裏を切ったが大したことはない。下が珊瑚なので海に裸足では入れず、サンダルをはいたまま入ってもすぐ脱げて困った。確か海に入ったのは高校1年の夏以来だと思う。ボートから飛び込んだりして思いっきりはしゃいだ。日焼けした顔は皮が剥げて凄まじいことになっている。腕はさらに日焼けした。

午後からは自由研修で、また昨日行った辺りへ出かけた。夕食はJOYレストランでビーフステーキを食べた。一緒に頼んだオレンジジュースは日本のと違って、どちらかというパイナップルジュースのような味だった。どれもこれもうまかった。ただ、レストランではウエイトレスが鼻で笑っていて、自分たちがちょっとバカにされている様な気がしてしまった。

そして今日もまた何人かにお金を借りてしまった。どうやらレートが悪く、1ドル135円ぐらいするらしいのだ。でも早くしないと、お金を借りたままなのは良くない。一応、誰にいくら借りたのかは毎日メモしてある。

明日は一日中自由研修だ。赤道祭の日も近づいてきて、緊張感が漂ってきた。

²大澤君。湘南校舎の2年生。躰道部に所属しているので船ではこう呼ばれていた。部で鍛えられているのか、かなり礼儀正しい男。彼のバック転は寄港地の子供たちに大人気であった。後に彼は躰道部の主将となり、部員を引き連れてキャンパス内を走っているのをよく見かけた。

1.2.3 島を満喫 1992年2月26日(水)

非常に充実していて楽しい一日だった。今日は山登りに行き、滝へ行って泳ぎ、夜はカニを食べた。

一番良かったのは山だ。望星丸から見えるあの大きな岩の山、ソーケス・ロックである。タクシーで途中まで行き、険しいところを運転手も一緒に登っていった。あるところまで登ると道はなくなり、しばらく立ち往生した。タクシーの運転手は文化センターに行ったときのタクシーと同じ人だ。彼もここに登るのは初めてだと言う。そして木の根につかまりながら、下手をすれば落ちて死ぬようなところを進んだ。木の根につかまり岩にへばりついて、確かに「怖い」と感じた。

しかし上へ行き着くととても気持ち良く、充実感が素晴らしかった。その上はロッククライミングしないと行けないので無理だ。そこで写真を撮りまくり、少し休んでから下ったが、下りもまた怖かった。汗だくになり、ひざに負担がかかり、腕の日焼けも痛かったが、とても面白かった。

そしてタクシーでJOY レストラン(小さい方)へ行って昼飯を食べ、何という名前だったか忘れたが、滝へ行った。滝自体はそれほど迫力があるとは思わなかったが、泳げたのでよかった。運転手も服を脱ぎ、パンツ一枚になって飛び込んできたりした。汗をかいた後でとても気持ち良く、楽しいひとときだった。

それから街まで行き、そこでタクシーとは別れた。少し歩いて、ナカジ³おすすめの、コーヒーがうまいという日本人のおばさんがやっている店に行った。アイスティーを飲んだが、冷たくてとてもおいしかった。もう一杯飲みたかったが、自分の金ではなく借りているので我慢した。1時間半ほどそこで過ごした後、SPANISH WALL PARK へ行ってのんびりした。

18時に予約しておいたJOY レストランへ行き、ツメの大きなカニを食べた。あれほど大きいのを食べたのは初めてだ。とてもうまかった！ビールも2本飲んだ。高橋君⁴にお願いして、今日も全ての支払いを借りて過ごしてしまった。とても申し訳なくて自分の思うように買い物ができない。ドルを持ってこなかったのは大失敗である。

夕食の時レストランの中はほとんど研修生で埋まっていたのだが、あるテーブルでは酔っ払っている人がいて、まるで宴会場のようにになっていた。ウエイトレスと笑ったりしていたが、こっちは恥ずかしかった。あれは日本人としてやめてくれ。ここは日本じゃないんだから。

昨日あまり寝ていなかったのも、タクシーの中や店の中では眠くなってしまった。しかし朝から晩まで充実していて、気分が良かった。夕食後、船へ帰るためにレストランで呼んだタクシーは、なんと昼間一緒にすごしたあの運転手だった。白い「M」がついた赤い

³中嶋君。熊本校舎の1年生。2班で1年生は私と彼だけで、よくふざけ合った仲。彼の体についた赤道祭の「悟空」の日焼け跡はしばらく取れず、赤道直下の紫外線の威力を感じさせた。彼とはかなり真面目な話も真剣に話せたが、思えば予備研修のときに最初に話したのも彼であった。彼は後に大学院へ進学した。

⁴清水校舎の2年生。かなり酒好であり、各地でよく一緒に酒を飲んだ。彼はこの航海中に髭を伸ばし、彼の髭が航海の長さを物語ることとなった。中嶋、伊賀の両氏とともに、私たちはふざけた写真をよく撮った。寄港地では各地の酒を嬉しそうに選んでいた姿が印象に残っている。彼は後に日本大学で博士過程まで進学した。

キャップをかぶっている彼だ。彼は自分たちを見て微笑んでいた。

「また会ったな。」

といった感じだった。船の近くにあって目印になる Harbor View Hotel まで行ってくれと頼んだのだが、その運転手はよくわかっているので船の前まで行ってくれた。降りてから 14 人一人一人と握手し、車をキュキュキュキューととばして帰っていった。何かとてもいい気分だった。彼は今日の仕事で随分稼いだんだらうなあ。結局、我々は彼に一日中お世話になったわけだ。

今日でポンペイでの研修は終わり、明日からまた海の上である。ポンペイはいい所だ。楽しかった。

1.3 赤道の向こう側

1.3.1 ポンペイ出港 1992 年 2 月 27 日 (木)

望星丸はポンペイに別れを告げた。12 時に出港し、またしばらく洋上での生活だ。出国手続きはパスポートを出すこともなく終わってしまった。手続きがあったのかどうかもわからない。後部デッキで遠ざかっていく島を見るのは感慨深かった。おそらくもうポンペイに来ることはないだらうな。

さて、もう明後日は赤道祭である。いろいろと物が出来上がってきて気分を盛り立てる。自分はセレモニーの中で、黒子と効果音係をやることになっている。船は揺れるが酔っている暇はない。でも今日はあまり気持ち悪くならない。慣れたようである。

また、班長と生活係（自分は 2 班の生活係）の集まりがあって、これからは学生自らいろいろとやって行こうという話し合いをした。先生方の管理から脱しようということだ。やはり生活は自分たちできちんとして行かなければならず、リーダーもみんな学生でやる方がよい。赤道祭が終わるまで大変だが、頑張ろう。あと少しだ！

1.3.2 ちょっと休ませて 1992 年 2 月 28 日 (金)

眠い。朝起きるのがだんだんつらくなってきた。一日中自由！という日が欲しい。今日の洋上講座の講師は団長であった。内容は水に関する話。海洋学部らしいもので、興味がない訳ではないが眠気が凄まじかった。その後の英会話講座はとても疲れる。なんとも時間が長く感じる。サボっていた奴も多かったし、みんな嫌になっているらしい。自分としては嫌いではないが、クラブの英会話の方が面白い。

今日も洋上クラブの英会話はあったが、こっちの方はつまらないと思ったことはない。それに有用なことがたくさん覚えられる。これはずっと続けていきたいが、残念ながら研修航海の間だけである。できるだけ多くのことを吸収して帰ろうと思っている。

さて、明日はいよいよ赤道祭である。大きな行事だ。みんないろいろと活発に準備を進めている。成功を祈る。頑張ろうぜ！明日は朝から忙しいが、終われば後々良い思い出となることであろう。航海はまだ 4 分の 1 が終わっただけである。楽しい事も苦しい事も、

この先たくさんあると思う。

腕の日焼け跡がすごいことになっている。本当に火傷^{やけど}の状態、ぐちゃぐちゃだ。

1.3.3 赤道祭 1992年2月29日(土)

楽しい一日だった。さすがに赤道直下だけあって、凄まじい暑さだった。赤道祭は大成功だったと思う。班ごとのかくし芸大会はいい企画だった。忙しく走り回ったが、とても充実感があり、時間の過ぎるのが速く感じられた。本番はクロコと裏方をやっていたあまり見ていないので、後でビデオをよく見せてもらおうと思う。赤道直下であるが、クロコの衣装は黒ずくめ。マッキー⁵の黒いTシャツを借り、自分の黒い巾着袋を頭にかぶった。長時間ではなかったが、言うまでも無く暑い！

夜の打ち上げは、これまた盛り上がった。みんなストレスがたまっているのか、凄まじい騒ぎだった。カラオケで盛り上がったが、酒の無くなるのが少し早かったような気がする。しかし丁度良い酔い加減である。赤道祭の担当班ということで後片付けも大変だったが、みんながとても楽しんでいたのが嬉しかった。今日はこの研修航海の中でも思い出深い日の一つとなった。

明日、朝起きるのはとてもきつそうだ。しかも朝の食当である。まだまだ航海は長い。明日から気分を新たにして頑張ろうと思う。

赤道通過は今日の早朝、5時ごろだったらしい。

1.3.4 台風発生！ 1992年3月1日(日)

あー、よく寝た。昨日は30分時計を遅らせ、今日はさらに30分遅らせた。これで日本との時差は1時間となった。赤道祭の疲れか、今日はとても眠く、午前中の洋上講座と英会話はつらかった。

洋上講座5回目は、副団長による水の話だった。前回の団長の話は海水の話だったが、今日は真水の話で、水道や井戸水についてのことだった。その後の英会話はこれまたつらかった。ピエール先生の英会話は、クラブの方は面白いのだが、講座の方はつまらない。

ところで、今日は重大な発表があった。台風が近くに発生していて、直撃を避けるために進路を変更するそうだ。よってプリスペインに到着するのは2、3日遅れるということである。そうすると、ホテルには泊まれなくなるかもしれない。残念だ。

これからまた船が揺れる。もう船には慣れたと思っているが、酔うかもしれない。今日の午後は何もなかったので、たっぴりと寝ることができた。久しぶりによく眠った。それから、2班の部屋の床にダンボールを敷き詰め、土足厳禁とした。床に座り込めて、これはなかなか良い。明日はやっと2回目の洗濯ができる予定だ。洗濯物がたくさん溜まっている。

⁵牧野君。湘南校舎の2年生。ロック好きのベーシスト。クールでマイペースだが言いたいことははっきり言う男。船室では私の上のベッドで、横になりながらよく藪崎さんとともに熱く語った。彼は航海中に恋をしたようだった。

1.3.5 一言 … 1992年3月2日(月)

あたま痛え。

1.3.6 つらいんです 1992年3月3日(火)

今日予定されていたひな祭りは延期された。行事が延期になったのは初めてである。

今日も一日中揺れは激しく、気持ち悪さと頭痛に悩まされた。洋上講座は高田先生だったが、ほとんどみんな聞いていなかった。英会話もみんなつらそうで、大して身につけていない。この状況でやってもしょうがないと思う。洋上クラブではホームワークで書いた作文がなかなか良いとピエールに言われた。嬉しかったが、頭痛がしていたのでつらかった。洗濯はまだできず、できるのは明日になってしまった。着るものもなくなってきたので、明日は絶対に洗濯したい。

ところで、腕の日焼け跡がひどいことになっている。一度皮がむけたところに水ぶくれができ、それがやぶけたところから血が出ている。しかも色がまだらで、痛くはないが見た目が気持ち悪い。自分が見て気持ち悪いのだから、他の人が見たらなおさら気持ち悪いだろう。

今日聞いた話によると、台風の影響はあまりなかったらしい。進路を変更しなくても良かったようだ。従って、どうやらオーストラリアにはほぼ予定どおりに着くらしい。予定より少しだけ遅くなるが、一日以上ずれることはないそうである。明日も洋上講座と英会話はつらそうだ。そう言えば朝の食当でもある。んんー頑張ろう!!!

1.3.7 ギタリスト藪崎 1992年3月4日(水)

宇佐美先生⁶のマラソンの話は面白かったが、やはり洋上講座と英会話の時間はつらい。今日はやっと二度目の洗濯ができた。甲板に干すと乾くのが早い。しかし汚れはあまり落ちていなかった。

午後からは特に何もなく、^{やぶさき}藪崎さん⁷のギターを弾いたり、^{たいどう}躰道のトランペットを吹いたりして過ごした。楽器というのはついのめり込んでしまうものだ。とても楽しい。このごろよく思うのだが、夕飯の時間が早すぎる。今日は16時50分ごろだった。食欲がないのに無理に食べている。もっと遅くすることはできないのだろうか。

船は今日も揺れている。頭痛も治らないし、少々吐き気もする。これは陸に上がらないと治らないだろう。さて、明日はひな祭りである。行事があると単調な生活から抜け出せるので、楽しみである。オーストラリアも近いが、航海はまだ半分も終わっていない。長いぜ!

⁶体育学部の教授であり、元オリンピック選手。テレビのマラソン中継で解説者として登場することもしばしば。船ではよく学生を怒鳴っていた(これは我々のせいかな?)。

⁷湘南校舎の4年生。我が2班の班長にして70人の研修学生を束ねる学生長でもある頼れる男。私にとってはギターの師匠でもある。2班には3年生がいなかったため、まさにみんなの兄貴であり、あらゆることにおいて良き相談役であった。でもちょっとエロ。

1.3.8 白塗りのおひな様 1992年3月5日(木)

疲れた。何だか知らないが、体がとても疲れている。今日は午前中は何もなく、午後からは延期になっていたひな祭りが行われた。お内裏様^{だいり}とお雛様^{ひな}役の2人の顔は、おしろいがムラになっていて、仮装大会のような雰囲気^{かもち}を醸し出していた。ちょっと面白かった。

途中、スコールで中断になったりしたが、ひな祭りはまあまあ楽しめた。赤道祭の時と違って自分たちで動かなくていいので楽だったし、ケーキもフルーツポンチも食べられたので嬉しかった。しかし甘いものだらけだったので、その後に出たおしるこまではさすがに食べられなかった。企画の方はあまりひな祭りとは関係ないゲームであったが、楽しく過ごすことができた。

夜の飲み会が始まるまでの間、甲板で大声で歌を歌ったり、楽器を弾いたりした。大声を出すとてもスッキリした気分になる。夕日がとてもきれいだった。あまり酒を飲む気にはなれず、少々頭が痛いので今日は早々に部屋へ引きあげてきた。昼頃から咳も出始めたし、どうやら風邪をひいたらしい。今、船の中では風邪がはやっている。

オーストラリアまであと少しだ。楽しいことがたくさんありそうで、今からわくわくしている。

1.3.9 流行りもの 1992年3月6日(金)

いかん。完全に風邪をひいてしまった。

声が変わる。頭が重い。

1.4 WALTZING MATILDA { Brisbane & Gold Coast }

1.4.1 お預け 1992年3月7日(土)

オーストラリアだ！しかし頭が痛く、熱も38°Cある。せっかくオーストラリアに来たのに、今日は一人で船に残って寝ている。みんなは出かけて、22時30分まで帰ってこない。でも選りに選ってこんな時に風邪ひかなくても…。

朝から頭が痛かったし熱もあった。無理して出かければ周りの人に迷惑になるだろうと思って行くのをやめたのだ。また、無理をしてこの一週間の滞在を棒に振ったら余計残念である。とにかく休もう。早く治ってほしいものだ。

1.4.2 ブリスベン市内観光 1992年3月8日(日)

楽しかった！今日はバスで市内の何箇所かをまわった後、17時ごろから自由行動となり、楽しい一日を過ごした。

⁸啓子さん。湘南校舎の3年生。船ではマドンナ的存在であり、我々一年坊主にとっては大人を感じさせる素敵な女性であった。だがこのひな祭りの化粧はちょっとかわいそうだったな。

バスで行ったのはまず City Hall。だが特に感動はなかった。そして日曜日だけやっているフリーマーケットを見に行った。そこは雰囲気楽しい。特に買いたくなるものはなかったが、パン屋の女の人がきれいだった。

その後に Woolshed へ行った。ここは羊がたくさんいて、ちょっとしたショーも見られて、食事もできるところだ。昼食はここで RAM ステーキを食べた。初めて食べたが、なかなかおいしかった。しかしこのサラダはどうも好きになれない。そのレストランではギターを弾きながら歌っているおじさんがいるのだが、みんなで Waltzing Matilda を歌って盛り上がった。そして藪崎さんが前に出てギターのおじさんと替わり、みんなで歌ってまた更に盛り上がった。とても楽しい一時だった。

昼食の後は植物園へ行ったが、そこあまり興味を引かれなかった。でもそこで初めてオーストラリアドルを使った。T-TOWEL とポストカード 2 枚を買った。外国通貨での支払い初体験である。普通に買い物しただけなのだが、ちょっと楽しかった。その後、バスが空港に寄ってくれたので両替 (1AUS\$=111 円) をした後、City Hall の前に再び戻り、そこでバスを降りて自由行動となった。

バスを降りてからの自由行動は、日曜日ということもあって町中の店は閉まり、人通りも少なかった。伊賀君⁹と一緒に、ぶらぶらと足の向くまま気の向くままに歩いたが、手元にあった地図が大雑把であり建物が載っていなかったために、発見が多く、夜は重要な建物がライトアップされていてきれいだった。古いレンガづくりの教会の後ろに新しいガラス張りのビルが立っていたりして、古いものと新しいものが混在する町の様子はとても面白かった。

夕食はなんとか Pizza という店でピザとパスタとサラダを食べた。そこは食べ放題で、値段は \$7.75。それに DRINK が \$1.60 (ちと高い!) だった。ピザとパスタは良かったが、サラダはまずかった。どうもあの豆がいやだ。その後はあるホテルへ寄ってトイレを使ったり、パンフレットをいろいろもらって、フロントで道を教えてもらったりした。宿泊客ではないのにとても親切で、感激した。

そして町を歩きながら建物を見たり写真を撮ったりした。その中で面白かったのは、公園の側にあった体重計。20 セント入れると体重が量れるのだが、それを見つけたとき、道端で 2 人で大笑いしてしまった。タモリ倶楽部でやっていた東京トワイライトゾーンに出てきそう。東京じゃないけど。2 人とも 20 セント硬貨を持っていなかったのも、通りすがりの人に声をかけて両替してもらって (笑ってた) 体重計に乗ってみた。当然変わったことは何も起こらないただの体重計なのだが、なんだかおかしかった。

帰り際に飲んだコーヒーはなかなかうまかった。その店は Ko±es (スペルを間違っているわけではなくこういう名前) というコーヒーショップで、\$2.40 のカプチーノを飲んだのだ。ただ「コーヒー！」と注文せずにコーヒーの種類で注文した経験は初めてだ。店のメニューには他にもいろいろなコーヒーがあった。

帰りのタクシーは \$7.70 で、二人で割って \$3.85 だった。船がいるのは BRETTS WHARF

⁹清水校舎の 2 年生。彼とはとても気が合い、寄港地では行動をともにすることが多かった。どこでも物怖じせずに積極的に行動する男。航海中のイベントの企画においてはアイデアもよく出していた。彼の恋の進行状況は逐一 2 班に報告され、2 班の夜は恋の悩み相談室となっていた。

という所だ。船を見ると我が家に帰ってきたという感じがする。船に向かって歩きながら、初めて南十字星を見た。写真に撮りたいが、写らないだろうな。近くの木にはフルーツバット（こうもり）がぶら下がっていた。

今日は昼も夜も外食だった。金がかかるが、もう船の飯は飽きた。あのプラスチックの容器もいやだ。ここにいる間は外食の方がいい。明日はクイーンズランド大学へ行く。国際交流だ！

1.4.3 クイーンズランド大学 1992年3月9日(月)

寿司だ。本格的ではなかったが寿司が食べられた。今日はクイーンズランド大学を訪問し、大学を見てまわってから大学内で昼食となった。庭のようなところに用意されたテーブルで昼食をとり、その後に山水譜を披露した。彼らはこれを何だと思っただろう。日本の伝統芸能が武術とでも思っただろうか。夜は望星丸二世で、大学の人たちを招いて船上パーティーをした。寿司はそのパーティーで出たもので、久しぶりの味だった。

クイーンズランド大学はオーストラリアで最大というだけあって、想像以上の広さだ。それに建物その他も非常に美しく、何と言っても博物館があって資料が充実しているのがすごかった。でも何だが大学に来たというより博物館の見学に来て飯食って帰っただけという感じで、もっと学生との交流が欲しいと思った。しかし環境はとてもいいし、施設も一流ですが！という感じだ。学生もみんな頭良さそうだし。

それから、ここの人たちの話す日本語のうまいこと！目をつぶって声だけ聞いたらまさに日本人という人も何人かいた。自分たちが英語を話せないのがとても情けない。

夜の7時から始まった船上パーティーでは、自分は音響係をやって終始裏方だった。ちょっと寂しかったし、国際交流としてコミュニケーションしなきゃいけないとも思ったが、全然この人と話していない。パーティーは大成功で、お客さんも非常に楽しんでくれたようだ。今日は疲れたがいい気分だ。明日はやっとホテルだ！

1.4.4 オーストラリアの動物たち 1992年3月10日(火)

ホテルだ！ゴールドコーストにやってきた。今日は狭い船のベッドを離れ、RAMADA HOTEL というところに泊まっているが、部屋が広い。日本のビジネスホテルより広い。船に慣れているため、スペースに無駄を感じる。空間の「余裕」というより「無駄」と思ってしまう。テレビを見るのも久しぶりだが、外国のテレビ番組を外国で見るのは初めてだ。コマーシャルがなかなか面白い。何を言っているのか聞き取るのは難しいが。

今日はLONÉ PINÉへ行って、コアラやカンガルーをたくさん見た。\$5でコアラを抱いて写真を撮ってもらえるところがあったのだが、突然撮られたので笑顔ではなく、ポーとした顔で写っている。お兄さん、「撮るよー」とかひとこと言って欲しかったな。

ゴールドコーストに着いてから夕食までは寝た。テレビも少し見たが、堺正章の『西遊記』が吹き替えで放送されていた。ガンダーラも英語だった。夕食後、街中をぶらぶらしたが、同じものでも店によって値段が違うので、よく見てから買わなければならない。ま

た、こっこの店は閉店してからも店内が見えるようになっているのでとてもいい。夜でも楽しい。それから、今日初めてXXXX(フォーエックス)ビールを飲んだ。確かに飲みやすいが、ビールの味の違いはよくわからんな。

明日はムービーワールドへ行く予定だ。いろいろとやりたい事もあるので楽しみだ。まだ咳が出る。早く治れ！

1.4.5 異国の中の異国 1992年3月13日(金)

中国だ！と言っても本当に中国へ来た訳じゃない。そう、チャイナタウンである。ここは全くと言っていいほどオーストラリアを感じさせないところだ。全体的に中国だが、日本料理の店もあればインド人の店もある。夕方からずっと歩き回ったが、とても妙な気分で面白かった。でも疲れた。

ちょっと日記書くのをサボっていた。今日までにあったことは、カランビン野鳥園や州境のビューポイントなどに行き、ゴールドコーストからブリスベーンに帰ってきたことである。また船に寝泊りの生活である。今日はまたブリスベーン市内を自由行動し、楽しいチャイナタウンを体験したわけである。映画を見たり、電車に乗ったりもした。

さて、昨日知らされた事だが、出港が台風のために延期された。昨日の話では15日には出港する予定であったが、今日の夜の点呼の時、出港は15日以降になったと知らされた。正確にいつになるかはわからないらしい。オーストラリアでの滞在が延びても、上陸期限が過ぎてしまえばずっと船の中だ。それに次のラバウルとグアムでの滞在予定に変更が出るだろう。このような理由で明日も自由となった。これはとてもうれしい。まだオーストラリアを楽しめるのだ。しかも自由に。

それから明日、何人かの人たちが上陸禁止ということになった。これは、クイーンズランド大学の友人と個人的なパーティーに行った人たちが、門限の22:30までに帰れなかったために、団役員の方から申し渡された罰である。連帯責任ということで4、8、9班が上陸禁止である。しかしこの処分には皆、納得がいかないようだ。やるならば全体責任でなければおかし。学生長の藪崎さんらも役員に話しに行ったが、これは変わらなかった。

1.4.6 クイーンズモール 1992年3月15日(日)

まだオーストラリアにいる。出港は17日の8:00に延期されたが、まだ延びるかもしれない。また日曜日を迎えることができたのでマーケットに行ける。今日はフリーマーケットへ行って、冗談Tシャツを一枚買った。これはなかなか良い。最近、船に帰ってくるとすぐ眠くなってしまっているので、日記を書くのをサボってしまう。これではいかん。

昨日はあるおじさんに会った。SUZUKIのキャップをかぶっていて、POST OFFICEで伊賀君と私に自動販売機の使い方を詳しく教えてくれた。そして夜、Hungry Jack'sの近くにある公衆トイレの前で再び会った。とても楽しいおじさんだ。そこでいろいろと話をしていると、ある日本人の女の人とオーストラリア人男性のカップルが、困っていると思っ

て話しかけてきた。色々とお話して楽しいひとときであった。SUZUKIのおじさんにはまた

会うような気がする。

明日はスポーツ大会が予定されているが、できるかどうかわからない。

1.4.7 一人歩き 1992年3月17日(火)

昨日は一日中雨が降っていて、全く外出しなかった。船は朝からシフトして少し後方へ下がった。

オーストラリアの自由研修最終日だ。今日は単独行動をした。特に珍しい場所へ行った訳ではないが、一人で歩くというのはなかなか良かった。ただ歩いているのが、とても楽しかった。ずっとCityを歩き回っていて、コミックスの店を見つけたり、安い本屋を見つけたりするのも面白かった。Ascot 駅から電車に乗って行ったのだが、船を出てから駅を見つけるまでずいぶん歩き回ってしまった。でも、その辺りの街並みを見ることができて、いい気分だった。

そして、このところ調子が悪かったカメラがとうとうイかれた。もう使えない。しょうがないのでフジの「写るんです」を買った。また、今日もSUZUKI さんを見かけた。MALLの映画館の横のMcDonald'sの前で一人で立ってアイスクリームを食べていたのだが、この前と全く同じ服装だった。このおじさんは一体何者なんだろう。

夕方、Hungry Jack'sの近くに座っていると、伊賀君がプロペラを担いで通りかかった。それは非常に奇妙な姿で、思わず笑ってしまった。そのプロペラは空港で50ドルで買ったということだ。二人で夕飯を済ませた後、タクシーでプロペラとともに船に戻り、またCityに戻ってKoesでカプチーノを飲んで帰った。タクシーのドライバーは、とても気さくで楽しい人だった。

明日は朝6:00に出港予定である。波がまだ高く、船は揺れるそうだ。また酔うかもしれない。

1.4.8 食ったら寝るだけ 1992年3月18日(水)

よく寝た。でも爽やかではない。起きて食って寝る…ということしかしていない気がする。ベッドで寝ているより、甲板に出ている方が気分がいい。船は揺れているが、思ったほど気持ち悪くはなっていない。

夜はビデオで『あしたのジョー』を見た。何回見ても面白い。あの独特の絵がとてもいい。今日は他には何もなかった。明日は洋上クラブがあるので、英作文を書かねばならない。きつい。

1.4.9 調子が悪い一日 1992年3月19日(木)

頭が痛い。昼飯は食わなかった。今日の午前中は研修まとめで、午後は洋上クラブだった。英会話クラブの宿題は1時間ほどで書き上げた。クラブが終わってからはほっとした

が、やっている最中は少しつらかった。でもパプアニューギニアで話されている言葉を少しだけ教わったのが面白かった。

夕飯はカニの甲羅に入っているカニのグラタンと、鶏モモ肉の骨付き唐揚げ、とうもろこし、ご飯、たくあんであった。とてもうまかった。オーストラリアを出てから、メニューの傾向が変わった気がする。うまくていい。夜はまたビデオ鑑賞。

今日は一日中頭痛がつきまとっていた。咳もまだ出るし、あまり調子は良くない。明日はまた洋上講座がある。つらそうだ。

1.4.10 ギターは楽し 1992年3月20日(金)

また夕飯がうまい！今日はハンバーグが出た。朝食のメニューはほとんど変化はないが、夕食はうまいものが続いている。

今日の洋上クラブの時間、我が英会話クラブは活動しなかった。食堂でビデオ(ウォール街)が上映されていたため、それが終わってからということだったのだが、ビデオが終わったら16:00だった。また、午前中の洋上講座は来間先生の話だったが、10分ほどで終わってしまった。さすが来間先生、みんなの気持ちをよくわかっていらっしゃる！でもせっかく早く終わったのに、その後の英会話は1時間20分もやった。疲れた。

夜のビデオ上映は見ないで、私は部屋で藪崎さんのギターを弾いていた。たっぷり弾けてよかった。明日も朝、起きるのがつらそうだ。最近、6:30ぎりぎりにならないと起きなくなってしまった。これではいかん。

1.4.11 ビデオ撮影 1992年3月21日(土)

クロコ再登場！今日はビデオ撮りがあった。頭が働かないので、いいアイデアが出ない。まだラバウルに着いていないのに、夕日をバックにラバウル小唄の一説を朗読。もっと面白いことをやりたかったし、何も研修航海の感想を言わなかったのはまずかったかな。多分、何のビデオかわからないものになってしまっている。少々後悔している。

1.5 戦争の海、戦争の島 { Rabaul {

1.5.1 兵士の海に花束を 1992年3月22日(日)

暑い。暑い暑い暑い！今日はとても暑い日だ。今日は予定の変更があった。なんとラバウルに早く着きそうなのだ。したがって、今日の15時から慰霊祭が行われた。団長だったか副団長だったか忘れたが、学徒動員の話の中で

「でも僕はまだ死にたくない。」

という言葉聞いた時、胸にくっとくるものがあった。

それから、19時から明日予定されていた我が2班のラバウル予備調査の発表をやった。しかしN氏の発表は、みんなあまり聞いていないようだった。荒木船長にお願いした

スライド上映はとても良かった。最後にラバウル小唄も歌ってくれて盛り上がった。

最近ちょっと運動不足だ。腹筋背筋が緩んできた。今日少しやったが、続けなければならぬ。そして今日は海が不気味なほど穏やかだった。まさに鏡のような水面だった。波は全く立っておらず、船も揺れていなかった。英会話の時間に seasick と言って出てこない人が何人もいたが、全くの嘘だとすぐにバレてしまっていた。

明日はもうラバウルに着くそうだ。ポンペイよりもすごいところらしい。今日は藪崎さんと夜中の1時ごろまで歌った。

1.5.2 ニューブリテン島 1992年3月23日(月)

ラバウルだ！第一印象は「あやしい」。ポンペイの場合は聞かされていたほど怖いところではなかったが、ここパプアニューギニアのラバウルは本当にヤバそうだ。ここの人たちは今まで見てきた人たちと黒さが違う。本当に真っ黒で、夜はいるのかいないのかわからないほどだ。それに、前方から4、5人で横に連なって歩いて来られると非常に怖い。

着港したのは13:30ごろだったが、入国手続きは非常に長くかかり、終わったのは16時を過ぎていた。何でそんなに遅いんだろう。しかもうちの班は食当だったので、あまり外を見てまわれなかった。天気は曇りだが、高温多湿なのでとても暑い。

ここへ来て最初に聞いた現地の人言葉は

「バナーナ。」

であった。船の横までボートを漕いでバナナを売りに来たおばちゃん3人組が言った言葉だ。船が泊まっている湾はとても静かで、のどかな雰囲気である。岸壁から海を覗き込むとウニがいるのが見えた。魚も泳いでいる。近くにはものすごく巨大な船が泊まっていた。これが動くのか。人間ってすごいものを造るなあと思った。

夕食後、ちょっと町(?)へ出てみたが、あまり買うものはなさそうだ。LUXのニセ物石鹸でMAXというのがあった。オーストラリア製だ。それから、牧伸二が持っているようなウクレレがあった。欲しい。

今日は夜の点呼が19時だったので、あまり町をうろつけずに船に戻った。戻る途中、港ではすれ違う人たちがみんな

「Good night.」

と挨拶してくれて、とても嬉しかった。少しラバウルに対するイメージが和らいだ。

1.5.3 島の火 1992年3月24日(火)

戦争の遺物。ここには戦争の跡がたくさんある。今日は午前中は自由だったので町をぶらつき、午後はツアーだった。戦闘機や戦車、大砲などを見たが、これらが実際に動いていたというのは信じられない気がした。これらが今は観光資源となっているというのは、複雑な気持ちだ。見てまわっているうちは結構楽しんでしたが、最後のアドミラル・バンカーでは神妙な気分になってしまった。いろいろと考えさせられるが、戦没者の人たちの冥福を祈るだけだ。手を合わせてその場を後にした。

それから、ツアーの途中で生まれて初めてココナッツミルクを飲んだ。その場でカットして差し出してくれたので、みんなで回し飲みした。薄いポカリスエットといった感じで、もっと冷えていればおいしいと思った。しかし量が多くて最終的には誰も飲まなくなって捨ててしまった。

夜は全員でファイヤードダンスを見に行ったが、これが同じことを1時間以上も続けるもので、正直言ってつまらなかった。導入部分だと思っていた演奏とダンスはずっと変わらず、盛り上がり欠けた。でも子供たちとふざけ合ったりしたのは楽しかったし、別れるときに握手をしたのは良い思い出となった。

明日は出港だ。今日は、研修学生で留年する人はなく、全員進級できるという知らせも日本から入った。もう眠いから寝よう。現在 23:30。

大声で どなるのやめて 宇佐美先生

1.5.4 さらにラバウルよ 1992年3月25日(水)

今日はラバウルを15:00ごろ(定かでない)出港した。出港までは自由だったので、パプアニューギニアの通貨Kina(1Kina 144円)を全て使い果たすべく町へ出た。狙っていたウクレレを買ったが、中国製のものであまり良くない。おもちゃだ。がっかりした。郵便局へも行き、ポストカードを買って友達に書いて出した。

ここは暑いので、ついジュース類を飲み過ぎてしまう。今日飲んだ中では、Gold Spotの黄色いのがうまかった。他のはまずくはないが、あまり好きではない。他にも少しだけ土産のようなものを買って、紙幣は全部なくなった。残ったのは56Toea(1Kina = 100Toea)分のコインである。カービングを買ってくる人はたくさんいたが、自分はあまり欲しいとは思わない。土産にするにしても、もらった人はあまり嬉しくないだろう。

それから、今日は靴ではなくサンダルで出かけたのだが、足の皮がむけてサンダルと擦れて非常に痛い。靴擦れが足の親指の付け根と、鼻緒を挟むところの2箇所に起こっている。やはり出かける時は靴の方がいいようだ。

この湾はとても穏やかで、景色が美しい。マチュピット火山¹⁰と望星丸をバックに写真を撮ったりした。ときどき、湾にボートを漕ぎ出している人がいたりして、とても絵になる美しい景色だった。

さて、明日はもう洋上卒業式である。藪崎さんはもう卒業だ。ラバウルは来た時もあるときも曇っていた。ついでに、来た時もあるときも食当。寝ながら書いてるから字がきたない。

N氏は足が猛烈に臭い。班員みんなが迷惑している。

¹⁰Matupit Volcano。数年後、この火山が噴火したというニュースは我々を驚かせた。火山灰が広がっている衛星写真が新聞に載り、あの町はどうなっているだろうと心配した。

1.5.5 洋上卒業式 1992年3月26日(木)

藪崎さん卒業おめでとうございます。今日は洋上卒業式が行われた。雨のために開式時刻が遅れたが、式は無事に執り行われた。練習生の伊藤さんが泣いでいたのが印象的だった。

式の後には各班によるカラオケ大会が行われたが、うちの班は「人生いろいろ」を暴露ネタに替えて歌った。なかなか面白くてウケていたが、審査員の点数は辛く、入賞もしなければ罰ゲームにもならなかった。何だかつまらない。夜の打ち上げでは、酒の飲めない藪崎さんがビールを一気させられていて、とても辛そうだった。それから、罰ゲームの暴露大会はとても面白かった。特に練習生のが。

1.5.6 第2回洋上スポーツ大会 1992年3月28日(土)

惜しくも1点差で2位！今日のスポーツ大会で、我が白組は黄色組に一点差で負けてしまった。これは悔しい。応援合戦では我々白組はチアリーディングをやった。これはなかなか楽しかったが、その前にやった空手で、青、赤、黄、1班と書いた紙を破ったのが不評で（これが原因という訳でもないだろうが）3位であった。自分は長縄跳びと、手押し車パン食い競争に出た。なかなか楽しめたし、非常に盛り上がった。みなさん、お疲れ様。

さて、航海の残り日数も1桁となった。あさってはグアム入港である。早く自分のアパートに帰りたくもあるし、この航海が終わって欲しくなくもある。複雑な気分だ。

赤道マンが髪を切ってすごい頭になっている。親には見せられないだろうな。

1.5.7 気分はTHE ALFEE 1992年3月29日(日)

のんびりした。今日は午前中にグアムの予備調査の発表があり、その後は洋上入学式の話し合いがあった。午後は特に何もなかったので、後部デッキで1時間ほど寝転がって日焼けをし、のんびりと過した。

夜、藪崎さんからエレキギターのエレキギターらしい弾き方を教えてもらい、ずっとアルフィーの「星空のディスタンス」のイントロの部分を実践した。難しい。急にギターが違う楽器になった様に思えた。

1.6 近づく港と去り行く日々 { Guam & Japan }

1.6.1 グアムの短い1日 1992年3月30日(月)

たった一日のグアムだ。ここは軍港である。当初の予定より遅れたので港が替わったらしい。今日の朝グアムに入港し、8:30から入国手続きがあった。今までの寄港地でのチェックが緩かったのか、グアムが特に厳しいのかはわからないが、何だかすごかった。迷彩服を着たゴツイ体つきの軍人が入ってきて、部屋をチェックした。椰子の実や貝殻のチェツ

クが厳しく、何だか怖かった。部屋を見ると言われた瞬間、みんなあたふたして面白かったが。

昼食中に入国手続きは完了し、12:30 にバスに乗ってツアーに出発した。しかし、はっきり言ってこのツアーはつまらなかった。それにグアムは思っていたほど都会ではない。あまり見るところもないし、大きな店も GIBSON'S 以外はない。ツアーのガイドは韓国人のおじさんで、日本語はあまりうまくなかった。自由の女神像があるところではスコールに会い、びしょ濡れになった。ガイドさんが言ったとおり、体がかゆい。

自由行動は16:00 ごろからだだったが、ほとんど GIBSON'S の中で過した。ここは日本円が使えるし、店員は日本語を少し話せる。何だか外国にいる気がしない。

20:00 ごろから OKA GUN CLUB へ拳銃を撃ちに行った。もちろん初めての経験だ。44 マグナムを 25 発と、45 口径オートマチック銃を 25 発撃った。あまり当たらなかった。撃っている時はものすごく緊張感があってとても楽しめた。\$60 と高かったが、まあいいだろう。もう一生やる機会はないかもしれない。そして、こんなもので人が死ぬんだなあとみんなで話した。撃った後は手が真っ黒になった。

日本円がこんなに簡単に通用すると思わなかったのが、船に 4 万円も置いてきたのはちょっと失敗だった。ラバウルでは 56t しか残さなかったが、今日も手元には 1 ドル残らなかった。別に考えて残さないようにしている訳ではないが、なかなかうまく使い方をしていると思う。でも記念に紙幣を取っておきたい気もする。紙幣で残っているのは AUS\$ の \$5 札だけだ。

明日はもう出港である。自由行動のできる日があと 1 日欲しかった。潜水艦に乗ってみたかった。日本でグアムは有名だが、自分は新婚旅行でここに来たいとは思わない。大したところじゃないよ。

次はいよいよ日本だ。長い航海ももうすぐ終わってしまう。今日も船に帰ってきた時、自分の住み家だという感じがした。まさに望星丸二世は我々の宿である。もうすぐこの宿ともお別れである。少し寂しい。

1.6.2 推進されてる？ 1992 年 3 月 31 日 (火)

昼と夜の飯を食べなかった。よく寝たが、あまりすっきりしない。船の揺れが大きい。最近、関山推進委員会というのが出回っている。なんだろう。

1.6.3 ブラッディーマリー 1992 年 4 月 1 日 (水)

今日は狩野^か先生が来て、2 班の部屋で飲み会をやった。先生が揃えた材料でカクテルを作ってくれた。楽しかった。

1.6.4 真っ黒け 1992年4月2日(木)

日焼けを強化した。長時間甲板で寝転がった。北井さんが来て、

「あ、なんかすげー黒いのがいる …? 関山かー。」

と言っていた。ものすごく焼けた。

最近、サイン帳やスケッチブックなど、個人的に一言ずつ書いてもらう紙が出回っている。たくさん紙をもらったが、ちょっと書くのが大変だ。夜はまた少しギターを弾いた。藪崎さんとマッキーからギターやバンドについての話を少し聞いた。高校のころは全く興味はなかったのに、自分のギターが欲しくなってきた。

1.6.5 二人きりの時間 1992年4月3日(金)

半分眠りながらチェスをやった。チーズはまずかった。でも、うまかった。

1.6.6 いつの間にやら 1992年4月4日(土)

大掃除をした。きれいにすると部屋が少し広くなった様な気がしたが、みんなの荷物を入れたらまた狭くなった。やっぱり変わらないな。

スミス島となんとか列岩というのが見えた。それから、明日は洋上入学式なので「洋上入学式」という垂れ幕を作った。船の揺れが凄まじい。でも船酔いしていないので、体が強くなったのだろう。

1.6.7 さよならパーティー 1992年4月5日(日)

もう明日で長かった海外研修航海は終わりだ。何だか信じられない。この望星丸二世は、もはや自分の家も同然であり、70人の仲間と別れてしまうなどとは考えられない。パーティーの最後はみんなで肩を組んで歌い、涙を流して抱き合い、握手した。本当にこの航海で得たものは多く、語り尽くすことができない。みんな本当に参加して良かったと思っている。そう思わない奴はいない。

我々は広い世界を感じ、一生の友を得た。友は人生最大の宝だ。この仲間たちとはこれから永い付き合いになるだろう。今、思い返してみると、この51日間は何て充実していたことだろう。何て楽しい毎日だったろう。決して忘れることはない。

この研修航海を我々に与えてくれた東海大学と、共に旅した仲間たちに感謝する。本当にどうもありがとう。必ずまた会おう！

1.6.8 私の国 1992年4月6日(月)

終わりはあっけない。荷物整理や掃除に追われ、なんだかあまり船と別れを惜しむ間もなく終わってしまった。望星丸二世が離れていくのを岸壁の側から見るのは初めてだった。

とても切なかった。港から一人、また一人と去っていくのも寂しかった。最後はもっと盛り上がりがあるかと思ったが、何かあっさりとしていた気がする。仲間たちと握手をし、自分も駅へ向かうタクシーに乗った。

広い世界を見てきただけに、日本に着くと妙に狭くてこまごました世界に帰ってきた感じがする。あまり懐かしさも感じないのだ。

大学近くの自分のアパートに帰ってきて早々、ESSの連中が7人ほどやってきて、部屋で飲み会となった。新学期からの予定などを聞かされて、急に現実に戻された。日本にはしがらみが多い。もっと楽しかった研修航海の余韻に浸りたかった。しかし帰国早々、こうやって友達が来てくれるというのは非常に嬉しいものだ。友達はありがたいと感じた。

船の荷物は宅配便で送ったので、明日にならないと来ない。長かった航海を感じさせるものが手元になく、帰国時にもらった出港時の写真を何分間も見続けた。ESSの連中が来てくれなかったら、とても寂しかったと思う。亮と佐伯が泊まって行く。

1.6.9 さくらさくら 1992年4月7日(火)

今日は学生証をとりて大学へ行き、新入生勧誘をしているESSのところにもちょっと顔を出した。昨日、^{やなだ}築田には「お前太ったな」と言われたが、今日は誰かに「やせたね」と言われた。人によって印象は違うみたいだ。日焼けも周りから見るとすごいらしい。船ではみんな日焼けしてたからわからなかったけど。

大学の書店では椎名君に会い、忠実屋の帰りにはマッキーに会った。マッキーは昨日帰ってからとても寂しかったと言っていた。自分と同じ様に、出発時の写真をじっと見つめたそう。昨日別れたばかりなのに、もう会いたくてしょうがない。おそらく全国に散らばっていった70人全員が感じていることだろう。あの船での生活、寄港地で歩いていた時間、のんびりしていて、日本のように車も多くなかった。もう戻れないのだ。この寂しく切ない感じはしばらく続くだろう。スムーズに大学生活に戻れるか心配である。

本当に昨日別れたばかりなのに、マッキーを見たときとても懐かしい気持ちになった。この研修航海で得た友人が今までの友人たちとは違うのがよくわかる。こんなに強い心の絆で結ばれた友人は今までにいなかったかもしれない。これからの自分の人生にとって一番大事なものがこの研修航海で得られたのではないだろうか。

今は寂しいが、必ずまた会える。それまで元気で。それぞれの場所でみんな頑張ろう！